

一期一会 マイドキュメント 1941-2011 古希を迎え本をつうじてのひととの繋がり

碓井 洸

古希を過ぎ本を中心に人生を振り返ると大きな転機となったのは、1990年頃と思われる。社会人となって25年目で年齢も50となる頃である。その頃偶然手にした『倭人争乱』という田中琢さんの書かれた古代史の本には、高校の日本史で習った邪馬台国の所在地をめぐる九州説と近畿説の行程表がそのままのっていた。高校を卒業して30年も過ぎ世の中も大きく変わったのに、それはまるで化石のようにあったのにはショックを受け、これを直接のきっかけとして、邪馬台国にのめりこむこととなった。

そして考古学者の笠井信也さんが「邪馬台国は大和である」という有名な論文を『考古学雑誌』に発表してから、1992年はちょうど70年を迎えることも知った。そこでそれを記念して同じ題で論文を書いてみようと思立った。結局1992年には間に合わなかったが、ほぼ草稿ができた1993年に御縁があつて大阪市立大学名誉教授の直木幸次郎先生に閲読してもらおうという光栄に浴することができた。大和説を主張する上での立論上の難点などのご指摘を受け、それを踏まえさらに推敲を重ねていた1995年1月に阪神淡路大震災に遭遇し、自宅マンションは半壊し、勤務先の甲南大学は建物の半分以上が全壊となり、二ヵ月間自宅待機となった。

この間毎日水汲みに奔走する中で、さらに原稿を書き加え、一冊の本にするという気持ちになった。この1995年から翌96年の2年間は、地震という自然災害とはいえ神から頂いた貴重な時間となったものとする。そして1997年2月には、単行本として夢を実現した。書名は先の笠井論文と同じだが、サブタイトルに「邪馬台国四国ルート論」を付けた。構想から5年を経ており、笠井の論文から75年を過ぎていた。

幸いこの処女出版は、神戸新聞に写真入りで紹介され、また毎日・読売の両新聞でも短評で紹介され、おおむね好評であった。また友人知人や歴史学・考古学の専門家からも好意的なコメントを頂き、大いに感激したことを覚えております。その後も拙論を固めるため研究を続け、『日本古代青銅器文化と陰陽道 荒神谷から黒塚まで』（2000年）、『三角縁神獣鏡と邪馬台国 古代国家成立と陰陽道』（2006年）を上梓することができた。この二冊の本も考古学・歴史学の専門家から賛同のお礼状を頂戴して大いに激励となりました。

本というのは不思議なもので、一冊を出すとそれに連鎖するようにテーマが現れ、それを追いつけることで、さらに研究を進化・深化させることを実感できることである。まさに本は循環するのである。

このドキュメントは、三冊の拙著に対する御専門家から頂いた礼状を中心として構成しています。その中でも一番感激したのは白川静先生から親筆のお手紙を頂戴したことです。さらに2011年には、地元西宮の中学二年生の「私の生まれた年の本」の推薦書になっていた時は正直感動しました。今回収録させて頂いた以外にも多くの貴重な礼状がありますが、それについてはまたの機会に譲り終わりたいと思います。（2013年11月28日記）

拝啓

やつと冬も峠を越し、梅の花の季節に入りました。老人の身にはさびびりあびりです。

先日、貴著の『邦島台国』は大和である。しかも

ありかとう、こぼれまわった。印刷の「にあい」がみまわって

なつみ、田んぼがいよいよ、これこそ新本の香り

と嬉しくなりました。

邦島台国論争については、立ち入って読んだ事が

ありません。確井さんの明瞭であらゆる事

手引きのあみで、興味を抱く事になりそうです。

方位の逆転発想の存在には驚きました。

いまままで、私はわりとア史のミケーネ時代の群雄割拠と

大王の存在の様相を、日本の古代の空にかぶせて日本を

考えるくせがついていました。先住人の中心の強

信住民のやがて各地で中心地をつくる過渡期の

時代です。本来は、日本の古代史をわりとア史にかぶせる

いきですが、悲しい事に私は日本の古代の知識が乏しい

ものかすまう逆をいつといたがです。

たミケーネ王国以後のわりとア史の転回と日本の

歩みはない。遠くについて、日本の統一への歩みは

ないふん。順調でいい。そのあみで、強種日本人を

占まらうの日本民族という純粋性を強調するよろこ

なつたのは残念でした。

考古学の発掘はまなまな推進の余地ありと思つて

います。御陵を掘うてくれないうで、不便です

もつとも、掘つても城址や住居あつてないうで、ないうで、遠く

はないあみしー山ませんか。発掘のあみつきに確井説か

不意のものになつたら愉快です。言語学の進層を

ついででも良いのです。言語学の進層を

知識不足のため、論評できないうで、残念です。私は

確井さんのあみで、わいふん知識が拡大します。

あつて御禮申しあみです。

敬具

衣笠

花

確井 流 様 二月二十七日

(元甲南大学長
ギリシア史)

拝啓

北陸も多う如き日射の道に云々

其内は言沙汰と云々

印は信の云々

其以て言は貴君有斯く

南北の道に云々

行かぬ云々

云々

この二二と云々と

邦交の同に聞くと

うう新説も云々

は云々

まにに云々

附きんは云々と

いかに云々

一箇に云々

書いり貴君御政大塚

中いり云々

書いり云々

石印控え云々

研平

元富山大教授 朝鮮語学 朝鮮書誌学

印中

改定版前巻 一

拝啓

先日は失礼しました。あの有と風邪を引いて二三日廢止のみ、御論考を拜見するものが、おくりました。簡単に意見を申し上げます。
(1) 結論は賛成ですが、そこへの論証については、十分理解のできない所があります。

(2) 地名の比定に地形の特徴を考えるのは、方法としては有益ですが、独断に陥りやすい所があります。
②の「奴」のナが「傾地」地形である」というのも、理由がわかりませんし、二日市から博多湾への地形から生じた名称を、肥後、薩摩までを念じ地名とするのは無理と思います。その他赤字で私見を書いておきました。

(3) 方位については、二十八宿のこと、私は智識がないので判断できません。しかし「南」を「南地」として一三五度の差を認めるのは、常識的に賛成できません。

たいへん失礼ですが、卒直に私見を記しました。御期待に添えなかつたことをお詫言します。

一九三三年三月二日

碓井 光 様

(大阪市立大名普教授 直木 孝次郎)

(大阪朝日放送 藤本 裕子) 元プロレターサー
梅使りしきりのこの頃、日附も春
めいて春りよめい、本日は大豆なカ作
中身重なる本を贈呈下さり、ありがとうございます。
あかとうのエンゾー、おもしろい。日本人は
とこは「あかとう」というような愛護を求めている
おもしろい。又、松本清張氏と中川、イトに「あか
旅行」の「あかとう」の物語は、あかとうの物語
あかとうより、あかとうの物語は、あかとうの物語
あかとうの物語は、あかとうの物語は、あかとうの物語

いそぐは、解る、理の通る、この後、論で、

積る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

解る、と、存、ト、下

(元奈良大学長)

水野 正好

元福井市保健所長 (白崎昭一郎)

(神戸松蔭女子大学 浅井宣光)

「邪馬台国は大和である」

研究成果まとめ出版

方位問題では独自解釈

邪馬台国（やまたいこく）は、どこにあったのか。古代ロマンに魅せられた西宮市泉町、甲南大学図書館司書、碓井洵さん（56）がこのほど、自らの研究を「邪馬台国は大和である」にまとめた。三百冊以上の関係書に目を通し、独自の解釈にたどりついた。「自分の研究が本になるなんて」と喜んでる。

四年前に読んだ邪馬台国と研究成果をまとめ、自費論争が、高校時代に習った出版にこぎつけた。ものから全く進歩していな邪馬台国の根本史料「魏にい」にシヨックを受け、志倭人伝」に記される二十た。それじゃ自分で」と一國の位置を表す地形書物を読みまくり、歴史雑から特定。配列に従って九誌に投稿を続けたが、門前州・伊都郡から邪馬台国へ払い。そのころ震災で自宅向かう水行十日陸行一月マシヨンは半壊。しかし、のルートを旧南海道に照らし、「逆境をかえて頑張れた」し、邪馬台国の位置を「畿



「邪馬台国」を研究、本にした碓井さん
＝西宮市内

問題では、「南北は逆転し素人なりに一生懸命勉強している」と独自の解釈を入れた。戦中、朝鮮半島に生まれ、た碓井さん。ルートの解明を「故郷喪失者のふるさと謎（なぞ）」といわれる方位探しだった」と振り返り、3・3942・08099。

問題は、「南北は逆転した」と話している。今後も研究は続けた。

千部発行。千八百円。問い合わせは近代文芸社0

読売 97. 3. 13(9)文化

新刊

邪馬台国は大和である
碓井洵 著
同じタイトルの書籍は、以前「邪馬台国」で方位問題を論じた。西宮市泉町に生まれ、戦中、朝鮮半島に生まれ、千部発行。千八百円。問い合わせは近代文芸社03・3942・08099。



近代文芸社・10000111

碓井洵 著

邪馬台国は大和である

碓井洵 著

邪馬台国は九州が大和か、だ。という。

「魏倭人伝」に記される邪馬台国が、九州か大和か、という日本古代史の大本題。著者はまず「倭人伝」に記された方位問題を、九州か大和か、という日本古代史の大本題として取り上げ、この問題をクリアする必要がある。従来の「倭人伝」に記された方位問題を、九州か大和か、という日本古代史の大本題として取り上げ、この問題をクリアする必要がある。

南北逆転解釈で立証

多方面から論じた独自説

碓井洵は、但馬、丹後を行程から「倭人伝」においた。水行十日、陸行一月、という記述に合致すると推定した二十八宿の方位を、従来の「倭人伝」の記述と照らし、独自の解釈を唱え、その立証が可能。大和・投馬島の所在を、

高句麗人、またはその影響を受けた人の手書か、と推定した。加えて、この必要があるが、東シベリア逆転方位の影響が、邪馬台国と大和の有力な証拠とされる。三角線緯度の交差や、銘文にも見られる。同じ北方騎馬民族をルーツとする「二年二歳説」による生没年考証から、女子早弥は、記述に任じて、倭国について、後継者のトナリに取組んでいた。四十一年近い研究の結晶。

（近代文芸社・10000111）

は「魏倭人伝」に記された方位問題を、九州か大和か、という日本古代史の大本題として取り上げ、この問題をクリアする必要がある。

（近代文芸社・10000111）

私が生まれた年の本

西宮市立 苦楽園 中学・大社 中学 2年生

平成23年 5月 トライアル・ウィーク (大手前大学図書館)

僕のおすすめの本は、

「邪馬台国は大和である」 碓井 洸

「秦漢帝国」 西嶋 定生

です。

この本を選んだ理由

僕は、日本や中国の歴史が結構好きなので、この本を選びました。この本には、けっこう難しいことがたくさんありますが、普通の本にはのっていないようなこともたくさん書かれていて面白いのでぜひよんでみて下さい。

「邪馬台国は大和である」 碓井 洸

僕がこの本を選んだ理由は、邪馬台国はどこにあったのかという問題に興味があったからです。この本は、その問題をちゃんと解決してくれる本です。

難しいところもけっこうありますが、おもしろいので読んでみて下さい。



御復

此の度は大著「面鏡神鏡」と稱馬台圖
 御意通下され拜見 陰陽道の陰微なる
 問題点と種々解明を試みれば有益の大著
 と拜見早速拝読其の(一)致し度き事小生
 昨今表裏容易に読者と違ひ難く殊に
 昨今の過熱にて屏然も状態にありしや
 少し大候のよと口つかり拜読致し度く
 存じたりき事 陰陽道と考古学的研究に
 正面から通用したるの旨著者御存じ
 じ、口をへて早と拜読の機会を得たりと思
 い、有りりありの御礼を、昨下何卒御自
 御存(一)の能は祈り致し、
 八月廿日
 白川生

榎井茂穂

白川生

前略、このたびは『三角縁神鏡と耶馬台国』の

御惠贈いたたきお礼申し上げます。息道、
陰陽道からの研究で『水』から落ちつて
読みこいたたします。

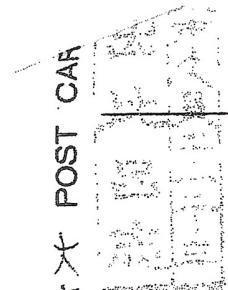
ここにまでお入り下さるには、御苦勞なれども
と思ひます。御去届お度び申し上げます。
檀芳研の方は非常勤で月の一、二度しか
来りません。お礼が遅くなりましたことおわび
申し上げます。

2007.12.25
奈良県立橿原考古学研究所 泉 敏 敬

POST 前略、本日『日本古代青銅器文化と陰陽道』
御惠贈いたたきお礼申し上げます。

銅鏡の保存、保管はついでに合理的保存方法を考
へた精神、思想的は今まで考えたことはありま
せんでした。銅鏡の前、後面文様の異なり（鑄型か
破損とそれ部への利用で見ておられるので...
弥生時代の多数の遺跡に陰陽道が表れている
し、そのおかげで知られたこと、果敢、墓地
等々、おかげで知られた。中国、朝鮮半島ではどう
なるか、おかげで知られた。おかげで知られた。
筒形金銅製品 藤ノ木古墳（斑鳩町法隆寺字藤ノ木）

2007.3.18 古墳時代後期



POST CAR

大森あきこ様へ
失礼しました。

POST C

新島氏名表

二〇〇八年元旦 衣笠 茂

水鏡
白紙が明るく反りました。
さて、先日は『耶馬台国』は
大知のあるにも御意迷さ
いまして誠にありがとうございます。
いましん。

ようかいざし
『三角縁神鏡と耶馬台国』
をお送りいただきありがとうございます。
お返します。

初秋の、ついでに、お返し。
『三角縁神鏡と耶馬台国』
お返しします。
お返しします。
お返しします。

八日市市雪野山古墳出土
鏡と銅鏡

八日市市雪野山古墳
竪穴式石室全景

昨年ご大作の『三角縁神鏡と耶馬台国』を有難うございました。陰陽道を活用
する古代人の頭脳に驚きましたが、それを追求された確井さんの頭脳と執念のほ
うにさらに驚嘆しました。批評する知識を持ち合わせていないのが残念ですが、
日本の古代人の文化について教えられ幸福でした。有難うございました。

あつくお礼申し上げます

拝読

西谷正

伊都歴史資料館
伊都国歴史博物館
〒819-1582 奈良県橿原市大字井原916番地
伊都国歴史博物館
(元館長 西谷正)

『三角縁神獸鏡と邪馬台国 古代国家成立と陰陽道』 後日談

『三角縁神獸鏡と邪馬台国 古代国家成立と陰陽道』の著者 碓井 洸

「一冊の本は世界を動かす力を持っている。」
「本は循環する。」

この言葉は、今から半世紀以上も昔に出版された『本の話』（岩波写真文庫）の一節ですが、今でも通用する真理でしょう。

今回出版した本は三冊目でもあり取り立てて言うこともないが、前の二冊の倍の判型となり、その校正の時間を作るのに苦労したことが忘れられない。処女作『邪馬台国は大和である―邪馬台国四国ルート論―』は、阪神大震災後二年目に上梓したが、それから九年目にして、その仮説の最終証明を果たしたことで肩の荷が下ろせたと思う。

本を出版するというところで人生を振り返ると、某大学教授をしていた父親が出版に際して、その校正を辞書を片手に母親が手伝っていて、その大変さを身近に見ていたのも、とても私などには本を出版するの難無理だと長いあいだ考えてきた。それが、この十年足らずに三冊も出版できたのは僥倖の限りである。

このように、一冊の本は世界を変えるかどうかは別として、書いた人のその後の人生を変えてしまう位の力を持っており、その生き方は今後とも変わらないであろう。それは本を出版したことによる社会的責任もあるが、もう一つとして本によって他人との新たな関係から、つまり私の場合には、知人・友人や直接面識のない考古学・歴史学の専門家からの御感想などのお手紙を頂くことで、本を出版して良かった、さらにこういう面をもっと研究しようという励みになるからです。

「本の世界が貧しいとき、人心は衰弱する。」

「本の生きるのは、過ぎゆく日常の時間とは異なる、可逆的な時間です。」（長田弘『本という不思議』みすず書房、一九九九）そこで、拙著に対する専門家の御意見を紹介させてもらうことで、この駄文を終わりたいと思います。

これ程、遺跡・遺物に関わる数字にこだわりと積極的評価を行った論文もおそらく初めてで、陰陽道・天文道を祀るための鏡と想定された三角縁神獸鏡の部分の分析は圧巻です（考古学の森岡秀人さん）。

古墳時代の王権を考える上で大切なのは「鬼道」だと思えますが、御著はそれを陰陽道天文道とはつきりと指摘しておられます。方法の客観性はご論文の信用度を高めていると存じます（日本古代史の山尾幸久さん）。

古代国家の成立を陰陽道・天文道の立場から見た新学説については、今後いろいろな点で論議が展開されることと存じます（文化人類学の佐々木高明さん）。

いずれも拙著を謹呈して頂いたもので抄録です。他にも考古学界の大御所の近藤義郎、大塚初重、西谷正の各先生からも研究の斬新さについて評価を頂いています。また漢字研究の世界的な泰斗の白川静先生からも達筆な御礼状を頂き深く感動しました。

この人がつづる自費出版体験記『交響ファンタジー』
夜自書房 平成二十三年改訂版

拝啓 御暑甚だしく益々清涼の至りと存じ
この日本は八月十日(日)の嘉祥寺 三角縁神鏡と
御尊の圓。大暮の御送賜あり。あふと
申し候。陰陽の面がの梅の下り。大暮は期待を
もって拝読いたすつもりです。あふと
申し候。御社を申し上げ、お入り
私どもは、狭い領域に於いて、お入り
お入り。天文の陰陽道の御社を
お入り。天文の御社を、お入り
お入り。天文の御社を、お入り

また拝受の御社を、お入り
お入り。天文の御社を、お入り
お入り。天文の御社を、お入り

碓井 沈 様

ち 様 かしこ

山尾幸久

清瀨ちるい 芳若日 三角縁神獸鏡
と新馬台 國日の直投にありし
心か 神一神一し つかます 古塔の
心の王様を考ふる 心大知なりは 鬼
道と心も 思ひます 古塔は それを
陰陽道 天文道とは いろいろと 指標
下地 水々々 大受たい 字体 作りで ゆうく
一押 清瀨 志法の 多気性
は 清文の 伝用 なる ありし 有りし

市泉町 5-5-55
碓井 洗 様

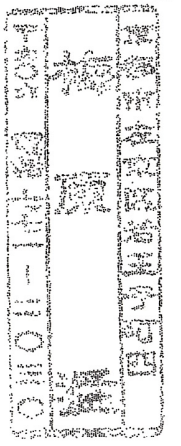
〒617-0002
向日市寺戸町中村垣内19
佐々木高明

御返り 有 御 心

前略 錦秋の候 如建路のとも 有り
この度の 物高者 三角縁神獸鏡
鏡と新馬台 國と 吐魯番
有難うございませぬ 古塔の
北朝
吐魯番

のよ 心に 約り
六へん 心 約り
のよ 心に 約り
か ぬ つく
成 成と 陰陽道 天文道の 交わり
見 見の 新馬台 鏡についで 今後 いろいろ あり
で 俵が 唐南の ありし 有りし
益の 御建路の 大新り 有りし 有りし
Tree pattern silk Northern Dynasty Turfan

洗 様



残暑お見舞い申し上げます。
お元氣でお過ごしのことと拝察いたしました。
御日は大者 三角縁神獸鏡と新馬台 國と
職場に 持ち参り 上にお返し 下さりまして、
まことに 有り難うございませぬ。 又し 振りの
故一冊の 体系に さいわい 本を 拝見し ます。 敬
ました。 そして、この 程度 遺跡 豊功に 固める 数字に
ごたりの 積極的 詳細を 行つた 論文も ありし 初め
で、 陰陽道 天文道 を 祀る ための 鏡と 想定 され
三角縁神獸鏡の 部分の 分析は、 二は 異なり 陰陽道
が 國工 経営の 手段として 三角縁の 調達と 配布を 促した
る 説を 最新の 出エテ タカ 裏アゲ 人とする 筆力には 敬服
の ありし 方格と 内行 又の 性質 対置は 大層 羨望
に 感じ、 採り ありし 数字 による 解釈が 当時どの 程度まで 徹底 して
いたか、 小生 の 能力では 判断 しがたなりし こと、 又 敵史 料も あり
使つて ありし 吟味 せせて 頂きたい こと、 思ひ 毎日を たく 御 直愛 下さり

木岡 秀人